

■■ 取組の経過 (取組アンケートから) ■■

◎取組内容

- ・縫製 ・編み物 ・さをり織り ・刺繍 ・受注制作
- ・アイロンビーズ ・小物づくり ・工作 ・切り絵
- ・ダンス ・筋力トレーニング ・自転車乗り ・散策
- ・駅名調べ ・図鑑づくり ・プログラミング
- ・イラスト制作 (手書き・PC) ・動画編集
- ・スポーツ (ダンス、ポッチャ、バスケットボールなど)
- ・クッキング ・楽器演奏 ・かかわり遊び
- ・運転免許の取得に向けて ・アヒリンピックへの練習

児童生徒との個別の話し合いにより、活動に取り組んでいます。「チャレンジタイムの時間は好きですか？」の問いに、91.9%の児童生徒が「好き」と回答していました。疲れを感じると欠席が見られる生徒が、チャレンジタイムのある日は欠席しなかったということからも、児童生徒の学習意欲を引き出す取組となっていることがうかがえます。

◎児童生徒の変容

- 【チャレンジタイムでの思い出】(児童生徒の感想)
- ・イチコタルトをできる限り一人で作ったこと。手伝ってもらわずに作ったことがうれしかった。
  - ・ビーズでのプレスレットは上手にできて、出かけるときにいつも使っている。
  - ・いっぱい間違えたけれど、編み物(マフラー)が完成してうれしかった。
  - ・動画編集でみんなに見てもらってコメントや「いいね」をもらい、やる気がいっぱい出た。
  - ・絵をかいてほめられることが多くなったから続けている。
  - ・作ったアニメを先生や家族に見せて「すごい」と言われた。うれしかった。
  - ・筆入れを作って渡したら、喜んでもらった。

児童生徒が「何度も じっくりと 期待感をもって」活動に取り組むことをおとして、「物事をやり遂げられる自分」「周囲から認めってもらえた自分」「うまいかかないことがあって、あきらめずにがんばれる自分」に気づくことができている。アンケート結果からも児童生徒の肯定的な自己理解が進んでいることがわかりました。



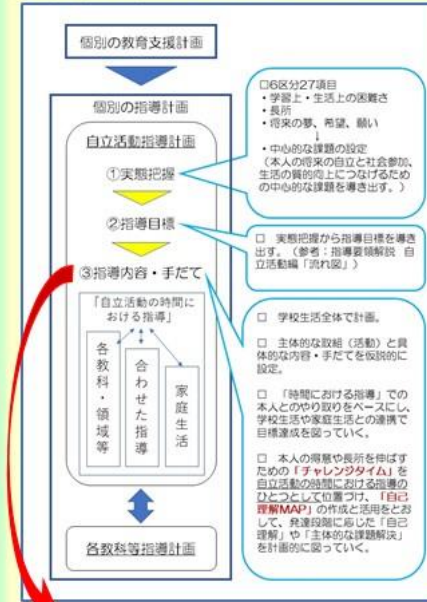
肯定的な自己理解が進むと、児童生徒は「次うまくできる自分」を思い描き、「今度はこうやってみよう」といった前向きな思考・判断が見られるようになります。そして、「何度も じっくりと 期待感をもって」活動に取り組み始めます。これがレジリエンスの芽生えであり、児童生徒は様々な変容を見せ始めています。

【本リーフレットへのお問い合わせ】 山口大学教育学部附属特別支援学校 研究推進委員会 YAMAGUCHI UNIVERSITY 〒753-0841 山口市吉田3003 TEL(083)933-5480 Email:fuyou-k@yamaguchi-u.ac.jp

■■ 今後の展望 ■■

◎個別の指導計画における位置づけの明確化

本校では、児童生徒一人一人における自立活動の指導内容の設定に至るまでの流れ(個別の指導計画の作成手順)を以下のように整理しています。



- 6区分27項目
  - ・学習上・生活上の困難さ
  - ・長所
  - ・将来の夢、希望、願い
- ・中心的な課題の設定 (本人の将来の自立と社会参加、生活の質の向上につなげるための中心的な課題を導き出す。)
- 実態把握から指導目標を選出する。(参考:指導要領解説 自立活動編「流れ図」)
- 学校生活全体で計画。
- 主体的な取組(活動)と具体的な内容・手立てを仮設的に設定。
- 「学期における指導」での本人とのやり取りをベースとし、学校生活や家庭生活との連携で目標達成を図っていく。
- 本人の得意や長所を伸ばすための「チャレンジタイム」を自立活動の時間における指導のひとつとして位置づけ、「自己理解MAP」の作成と活用をおとして、発達段階に応じた「自己理解」や「主体的な課題解決」を計画的に図っていく。

指導内容	手立て
自立活動の時間における指導	各教科等指導計画
家庭生活	各教科等指導計画
個別の教育支援計画	個別の指導計画
個別の指導計画	自立活動指導計画
自立活動指導計画	①実態把握 ②指導目標 ③指導内容・手立て

「チャレンジタイム」で取り扱う指導内容(上表ではサイクリングや調理)は、自立活動の視点から手立てや留意事項を記述することになっています。このことにより、「自立活動の時間における指導のひとつ」としての位置づけが明確となり、「チャレンジタイム」で何を大切に指導・支援するとうかがいを明確にすることができると考えています。

全ての子ども  
「自己肯定感」や  
「レジリエンス」  
を高めたい

「チャレンジタイム」  
への挑戦  
2020～

自立活動の時間における指導のひとつとして

プレ研究 (2年目)

山口大学教育学部  
附属特別支援学校

YAMAGUCHI UNIVERSITY



「志」つなぎ伝える二百年





## 01 「チャレンジタイム」構想

本校では、児童生徒が将来の「自立と社会参加」を実現するためには、学んだことや身につけたことを、自身の生活の中で「つかえる」ようになることが重要であると考えています。

しかし、発達障害のある児童生徒は、その特性から、周囲の理解が十分ではないと、自尊心を損なうような経験をしていることが少なくありません。このような経験が繰り返されると慢性的な不安感にさいなまれ、自己肯定感が低くなり、「何度も じっくりと 期待感をもって」物事に取り組むことが難しい状態に追い込まれてしまいます。このような状態では、学習で学んだことを生活の中で「つかえる」力にまで発展させていくことは難しいと思われます。

そこで、令和2年度から、**自立活動の時間における指導のひとつ**として、「チャレンジタイム」の取組を開始し、児童生徒の自己肯定感を高めることにより、レジリエンスの向上を図る授業実践をブレ研究として進めています。

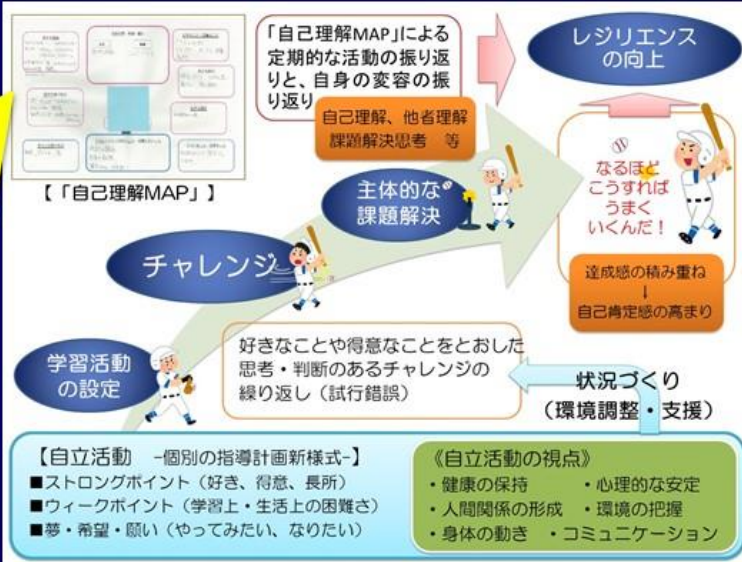
### 🔍 レジリエンスとは？ (最新 心理学辞典)

一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される言葉で、近年は、「困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して回復する力」という心理学的な意味で使われるケースが増えています。

このレジリエンスを高める要因は、「楽観性」「統制力」「社交性」「行動力」という**資質的なレジリエンス要因**と、「問題解決志向」「自己理解」「他者心理の理解」という**獲得的なレジリエンス要因**が挙げられています。

### 「自己理解MAP」とは？

教師と一緒に、本人の現在(今)の状況を共有するワークシート。チャレンジタイムの時間をとおしてうまくいくようになったことや次の取組、目標を話し合う。本人のメタ認知や問題解決的な思考を高め、ポジティブな「自己理解」を図っていく。項目は、「将来の夢、希望、願い」、「チャレンジしたいこと、克服したいこと」、「好き、得意」、「キラリ、苦手」など。



「チャレンジタイム」の授業は、児童生徒一人一人の得意なこと、好きなこと、やってみたいことなどの興味関心のあることを中心に、学習活動を展開します。

児童生徒は、積極的な思考・判断を伴う「チャレンジ」を繰り返しながら、「こうすればうまくいった」「次はこうしてみよう」「何度も挑戦してよかった」といった振り返りをおして、主体的に自身の課題解決を図っていきます。

## 02 実践事例(小学部)

小学部Aさん(5年生)

【困難さ】

- ・見通しがもてない場合や視覚的誘発的な刺激で混乱し、逃げたり騒いだりしてしまう。
- ・周囲に合わせた行動をとることを苦手とする。
- ・人との関わりが限定的である。
- ・言葉によるコミュニケーションが少ない。

【実容】

- ・混乱することが少なくなる。
- ・落ち着いて過ごせる時間が増える。
- ・教師と言葉で関わろうとすることが増える。
- ・集団での参加が増える。

主体的な課題解決

- ・段ボールにイメージした好きな車の絵をかいて、色を塗ったり車の形に切り取りたりできるようにする。

学習活動の設定

- ・塗り絵
- ・タブレット端末の視聴
- ・段ボール工作(作ってほしいものを言葉で要求、自分では作ろうとしない。)

自立活動の視点

- ・見通しを持ち、安定した気持ちで生活できる。(心理的な安定)
- ・要求を伝える。(コミュニケーション)
- ・環境の把握



## 03 実践例(中学部・高等部)



「イラスト制作」  
□得意を磨きたい!

- 自信→情緒の安定
- 他者への寛容性
- 言葉遣いの改善
- 学習意欲の向上
- 苦手への対処

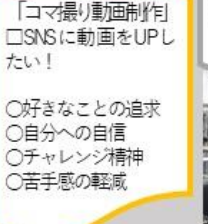
「ポッチャ研究」  
□映像やノートによる振り返り

- 自信、がまん強さ
- 挨拶、返事、意見
- 主体的な進路選択
- パラスポーツ協会への加入



「コマ撮り動画制作」  
□SNSに動画をUPしたい!

- 好きなことの追求
- 自分への自信
- チャレンジ精神
- 苦手感の軽減



「バッグ制作」  
□好きなことにじっくりと取り組む

- 自信→情緒の安定
- 周囲に流されずに意見が言える
- 主体的な進路選択への加入



「路線図の製作」  
□やってみたい!を形にする

- 不安感の軽減
- 意思表示の改善
- 対人関係の好転
- 学習意欲の向上

